

生涯を通して庶民の立場・アジアの心を大切に
し、反核平和に貢献した政治家・歴史研究者

故・吉岡古典さん

(元参議院議員)



吉岡古典さんは今年(二〇〇九年)三月一日、韓国のソウル市で亡くなりました。八十歳でした。この日、韓国では「三・一朝鮮独立運動九十周年連帯シンポジウ

ム」が開催され、吉岡古典さんは日本側の報告者として講演しました。三・一朝鮮独立運動というのは、一九一〇年に日本の植民地にされた朝鮮の人たちが一九一九年

三月一日に民族独立を求めて、大衆運動を朝鮮全土にくり広げた記念の日です。この平和的デモに対して日本軍は残虐な弾圧をしたのです。その九十周年を記念するシンポジウムで、吉岡古典さんは、朝鮮・韓国人民の誇るべき伝統を語り、日本側の歴史認識を確かなものにするこゝとよって両国人民の連帯を強めることを訴え、韓国の人たちに感動を与えたそうです。そしてこのシンポジウムのあとの宴会のときに倒れて急逝されたのです。

吉岡古典さんの生涯は日本共産党員として出生地の島根県での活動に始まり、上京したのちは参議院議員として国会で働き、赤旗編集局や党幹部会で、またいろいろな大衆団体のなかで活動してきた八十年でした。

また、この活動のなかで近現代史の研究を続けてきました。それは一貫して、平和を守り、庶民の立場に立った歴史研究でした。そしてアジア、とくに韓国・朝鮮の人たちの心を大切にしてきました。吉岡古典さんは、議員活動を終えたあと講演・執筆に全力をそそぎました。二〇〇七年二月には、

田中正造を現代に活かす会のシンポジウムで「東アジア共同体の発展に田中正造を活かす」という講演、二〇〇八年七月には下町人間涼風花火のつどいで「勝海舟、東アジア共同体と日本国憲法」という講演をしています。

来年は、日本が朝鮮を植民地にした「韓国併合」から一〇〇年になり、吉岡古典さんの活動がますます期待されるとき、真に残念なことです。ここに下町人間庶民文化賞・特別功労賞を贈り、吉岡古典さんを偲びたいと思います。

(梅田欽治/宇都宮大学名誉教授、田中正造を現代に活かす会・代表世話人)

